

その後の威臨丸

■1■

塚本 謙蔵

安政四年、長崎到着

徳川幕府がオランダに宛てた木造船艦「ヤッパン号二六二五」は安政四年(一八五七年)秋カッテンダイケ艦長のもと長崎に到着している。このヤッパン号を「威臨」と改名

記述の混乱

したのは中国の古典「易経」に求めた。すなわち君臣、互に親しみ厚く、情あまねきことである。この艦は安政二年長崎に開所された幕府の海軍伝習所に所属し、勝海舟をはじめ幕府海軍士官の訓練艦として利用されたが、日米修交通商条約批准後交換のため渡米した万延元年

ことである。

その後、威臨丸は小笠原諸島開拓者や物資の輸送に従事、また東京湾周辺海域警備のために活躍していたが、軍艦としては小型で蒸気機関も小さく航海は帆走であった。慶応三年軍艦籍を削除され、輸送船となり、さうして慶応四年(一八六八年)機関も撤去、純帆走船となった。時はまさに激動の時代であった。戊辰戦争のさなか、幕府海軍、最後の立役者で

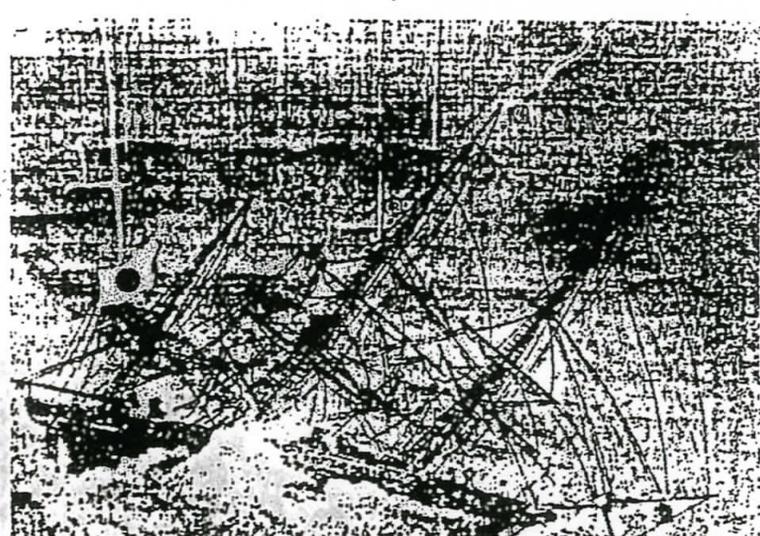
上磯での座礁はいつ？

あった根本武揚は、幕府艦半、威臨丸は回天に曳(え)船を品川沖に集結させ、箱(い)航され品川沖を出帆し、府軍将兵とともに蝦夷地にていった。

新天地を求めた。軍艦「開陽二、一八七〇」、「回天」

一、六七八〇など四隻、輸送船四隻のうちの二隻として、慶応四年八月十九日夜

いまだに尾を引く「修好事始」の矛盾



太平洋を渡る威臨丸 (鈴鹿勇次郎画)

岸に坐礁破砕す

ところが村山の記述には矛盾するところもあって、その混乱がいまだに尾を引いているようである。例えば刊行中の「困史大辞典」(吉川弘文館)では「…のち民間の回漕会社に移され、(明治)三年北海道沿岸で難破」「大日本百科全書」(小学館)では「のち開拓使の運送船となり、七二年(明治五年)廃船となる」とある。

二十日か十九日か

筆者は開拓使所有で民間の回漕会社取り扱いとなり、明治四年(一八七一年)、本道入植を口指す白石片倉家臣団を乗せて航海の途次、九月二十日座礁と考えられる。これは「北海道大百科事典」(北海道新聞社刊)ともほぼ一致するが、そこでは事故発生日を「九月十九日」としている。威臨丸の最後をたどりながら、この一日の違いについて、なお留意してみたい。

清水で政府が捕獲 この季節は台風襲来も多く、運悪く日本近海を通過する台風の影響を受け、鈍

明治四年九月二十日、威家 (札幌白石高教諭・郷土史)